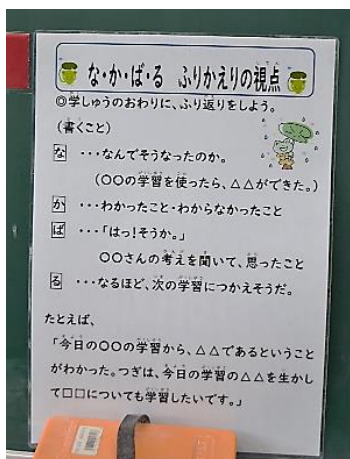


第3章

【子供の実感や達成感、更なる意欲が生まれる終末の工夫】実践例

「振り返り」の視点を共有して共通実践する取組 ～南小国町立中原小学校～

学習の終末に行う「振り返り」で重要なのは、「どのような視点で振り返るか」である。中原小学校では、教職員や児童生徒にとって覚えやすく、親しみやすい視点を設定して授業の振り返りに生かしている。



中原小学校では、学校名の「な」「か」「ば」「る」を用いて、「な：なんでそうだったのか」「か：わかったこと・わからなかったこと」「ば：はっ、そうか」「る：なるほど、次の学習につかえそうだ」の4つの視点で授業を振り返りました。

親しみやすい視点を設定することで、教職員や児童と共有して継続的に振り返ることができるようになり、児童が、自らの成長を実感できるようになりました。

教科等の特性や本時のねらい等に応じて「振り返り」の視点を設定する取組 ～水俣市立緑東中学校～

教科や単元によって必要な「振り返り」の視点は変わってくる。緑東中学校では、振り返りの視点を共有し、その中から授業に応じて適切な視点を選んで用いることで、教科や単元にとって適切な振り返りが行えるように工夫している。

「振り返り」の視点

- ① 分かったこと、できたこと。
- ② 「いいな」と思った友だちの考えは、何か？
- ③ 疑問に思ったこと、新たな課題は、何か？
- ④ 疑問に思ったことや課題をどのように解決したいか？
- ⑤ 学習の前後で自分の考えや態度がどのように変わったか？
- ⑥ 「学んだこと」を生活や次の学習にどう生かしていきたいか？



緑東中学校では、年度当初に6つの視点について共通理解しました。

授業では、教科等の特性や本時のねらい等に応じて授業者が視点を選び振り返りを行いました。「振り返り」の視点が適切に焦点化されたことで、「何を振り返るのか」が明確になり、生徒が「何ができるようになったのか」「何ができなかったのか」を自覚しやすくなりました。

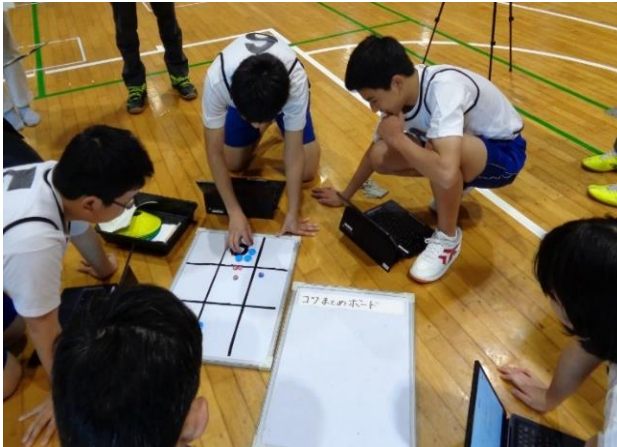
第3章

【子供の実感や達成感、更なる意欲が生まれる終末の工夫】実践例

ICT等を用いた活動の記録を振り返りに生かした取組

～高森町立高森東学園義務教育学校～

「振り返り」で重要なのは、「何を振り返るか」である。高森東学園義務教育学校では、児童生徒の記憶だけに頼るのではなく、ICT等を用いて児童生徒の活動を見える形で残しておくことで、振り返りの充実を図っている。



体育科の授業において、ゲームの中で相手とのスペースを生み出すポイントについて、個人の気付きをタブレットに記入していき、作戦ボードを媒介として視覚化し、全員が同じボードを見ることで、ポイントをつかむための有効的な話し合いができました。

また、「振り返り」の際に「自分たちがどのように課題を解決していったのか」を振り返る際にも生かすことができ、生徒が、自らの成長を実感できるようになりました。

一枚ポートフォリオを用いた単元の振り返りの取組

～荒尾市立荒尾第四中学校～

児童生徒の考えが単元を通してどのように変わっていったのかを振り返るためには、単元を通した記録を残しておくことが必要である。荒尾第四中学校では、「一枚ポートフォリオ」を用いることで、単元を通した振り返りの充実を図っている。

太宰 治「走れメロス」一枚ポートフォリオ		2017年 月 日 ～ 月 日
メロスは本当に勇者であると言えるのか。		
<p>第1回（書き） 書かない</p> <p>・小説の中で「勇者」と書かれているから、主眼を定めることができたから。</p>	<p>第2回（書き） 書かない</p> <p>1. 2の場面を読んで、あまりにも先のことを考えていなかったり、いい加減だったところがあるので、やはり書かないと思った。勇気と部族は違うと思う。</p>	<p>第3回（書き） 書かない</p> <p>3の場面を読んで、最初はやっぱり書かないと思っていたけど、口口さんが「自分も同じような気持ちになった」という意見を見て、私も同じだと思った。あきらめそうところから、立ち上がることでできたので、勇者と言った方がいいのではないかなと思った。</p>
<p>第4回（書き） 書かない</p> <p>初めのメロスは、無謀なところや自分勝手なところがあるので、長所とも書かないと思った。でも、部族は乗り越えることができた。最後の方は強い感じがしたから、このように設定されているのか、について話した。合った時に、主人公の「弱さ」を乗り越えることができるのが勇者だ、ということを表現するために、という意見を聞いて、作者が表現したかったことはそのように感じ、最終的に勇者と言えそうだと思った。</p>	<p>第5回（書き） 書かない</p> <p>4. 5の場面では、ほとんど書いていないので、勇者と書んできたらと思うけど、本当に勇者なのかを疑問に思っている。勇者とはどのようなものなのか、疑問に思った。</p>	<p>第6回（書き） 書かない</p> <p>この単元を振り返って、どのような人物なのか、なぜそのように設定されているのかを考えると、小説を深く読むことができ、今まで気づけなかったメッセージに気づくことができた。これまでに習ったことのある物語や小説も、同じような読み方で読み直してみると、これまでに気づけなかったことに気づけるかもしれないと思った。</p>



第2学年国語科の読むこと「走れメロス（太宰治）」の授業で、「メロスは本当に勇者と言えるのか」という課題について単元を通して検討しました。

この単元では、生徒が自分自身の「読み方の成長」を感じ取ることができるように、「一枚ポートフォリオ」を用いました。

生徒は一枚ポートフォリオに、①問いに対する最初の考え、毎時間の授業の記録、③問いに対する最終的な考え、を記録していきます。単元の終末に①と③を比べることで自分自身の「読み方の成長」を、②を読み返すことで「どのような読み方を工夫したから考えが深まったのか」を振り返ることができました。